



## 世の中への扉 海をわたる被爆ピアノ

著 矢川光則  
講談社

被爆ピアノの音は平和を願う声

倉敷市立玉島西中学校 1年

### 紹介文

被爆ピアノは原爆の被害にあいました。被爆ピアノには、きずやへこみがあります。調律師の矢川さんは、この被爆ピアノの音色を通して戦争についてもっと知ってもらおうとしています。そして、矢川さんの活動への姿勢が素晴らしいです。この本を読むと戦争のこわさ、そして今、日本が平和であることのうれしさが感じられます。また、自分も何かを通して伝えられることがないかと考えさせられます。

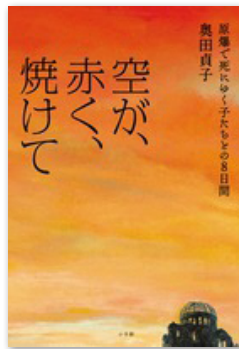
倉敷市立玉島西中学校 2年

## ～原爆の証言者からのメッセージを伝えていこう～



はだしのゲン わたしの遺書

著 中沢啓治  
朝日学生新聞社



空が、赤く、焼けて  
原爆で死にゆく子どもたちの8日間

著 奥田貞子  
小学館



戦争というもの (コミック) F S

著 手塚治虫  
監修 中野晴行  
童心社

『はだしのゲン わたしの遺書』は中沢啓治さんが広島原爆をテーマにした漫画を描こうと決意したいきさつが書かれています。どんな思いが込められているのか知ってから漫画を読むとセリフの一つ一つがより心に響くように感じられます。『空が、赤く、焼けて』は、奥田さんが8月7日に広島入りしてから8日間に会った子どもたちの様子を記録した日記です。名前も残されていないけれど、苦しんで死んでいった子どもたちの言葉を書き留めています。『戦争というもの』は手塚治虫の戦争をテーマにした6編の漫画が集められた本です。様々な目線から、原爆について知ってほしいです。



## 世の中への扉 零戦パイロットからの遺言 原田要が空から見た戦争

著 半田滋  
講談社

### 原田要さんの平和への思い

美咲町立旭中学校 3年

#### 紹介文

この本は、零戦に乗って戦う原田要さんというパイロットの話です。原田さんは、最初パイロットがかっこいいと憧れてパイロットになりました。しかし、いざ戦場に出ると、相手を殺さなければ、自分が殺されるという戦争の恐ろしさを知り、「戦争が憎い」と言っています。

私が印象に残っているのは勝つためには人を犠牲するという、日本の「人命軽視」の考え方です。私はとても心が痛くなりました。そして、平和な世界を作るため、行動していきたいと思いました。

美咲町立旭中学校 3年

## ～少年少女たちの戦争～



### 70年分の夏を君に捧ぐ F

著 櫻井千姫  
イラスト ぶすい  
スタート出版



### 少年たちの戦場 F

作 那須正幹  
絵 はたこうしろう  
新日本出版社



### 殉国 陸軍二等兵比嘉真一 F

著 吉村昭  
文春文庫

『70年分の夏を君に捧ぐ』は全く違う時代を生きた2人の少女の物語です。東京に住む高2の百合香は、終戦直前の広島に住む見ず知らずの少女と魂が入り替わってしまうようになり、やがて8月6日が訪れます。そのとき百合香は……。『少年たちの戦場』は、様々な戦争に巻き込まれていく少年たちの物語です。史実に基づいたストーリーなので、なぜ少年たちが戦わなければならなかったのか、じっくりと考えることができます。『殉国』は、十四歳で鉄血勤皇隊として沖縄戦に参加した真一の話です。少年の目線から、沖縄戦が描かれていて、怖いと思う描写もありますが、当時の様子を、目をそらさずに読んでほしい本です。



## 月にハミング

F

著 マイケル・モーパーゴ

訳 杉田七重

小学館

言葉と記憶をなくした少女の物語

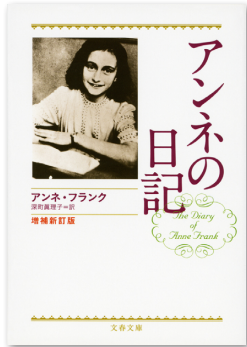
倉敷市立南中学校 2年

### 紹介文

この本の作者マイケル・モーパーゴは戦争で生きる人々の喪失、再生、希望をしみじみと描く作品が多い。その中でも『月にハミング』は第一次世界大戦中の「ルシタニ3号事件」を背景に書いていると知って読んでみようと思った。必死に生きようとする少女と少女を温かく支える一家の姿に心を打たれた。

倉敷市立南中学校 3年

## ～戦争に巻き込まれた世界の子供たち～



アンネの日記 増補新訂版

著 アンネ・フランク

訳 深町真理子

文春文庫



ぼくは13歳 職業、兵士。

著 鬼丸昌也、小川真吾

合同出版



知らなかった、ぼくらの戦争

編書 アーサー・ビナード

小学館

『アンネの日記』は第二次世界大戦時のナチスによるユダヤ人の迫害がどれだけひどく、人々を苦しめたかが分かる本です。アンネの残した日記から、戦争が歪めた人々の心が読み取れます。『ぼくは13歳 職業、兵士。』は、ウガンダでの具体例を取り入れながら、世界各国の子ども兵の現状が紹介されています。今も銃をもって戦っている国、人、子どもがいることを教えてくれる本です。『知らなかった、ぼくらの戦争』はアメリカ出身の詩人アーサー・ビナード氏が、太平洋戦争体験者に体験談を聞いて回ります。アメリカの教育と照らし合わせながら、戦争について考えを深めます。「平和」とは無知のままにしていることなのか、私たちに問いかけます。



## ある晴れた夏の朝

F

著 小手鞠るい  
イラスト タムラフキコ  
偕成社

あなたは原爆を肯定しますか？それとも否定しますか？

倉敷市立南中学校 2年

### 紹介文

この本は、原爆についての肯定派と否定派に分れて討論する話なので、自分の意見と自分とは違う意見を比べながら読むことができます。そして、今まで自分が知らなかった話もたくさん書いているので、原爆は必要だったのかということを改めて考え直すこともできます。自分は肯定派なのか、否定派なのか、自分の意見を持って読んでみると、自分の考えがより広まると思います。

倉敷市立庄中学校 2年

この本は、「戦争」をテーマとして討論をする物語です。原爆や人種差別などについて話し合い、善悪を決めようとしています。2つの肯定派と否定派のチームに分かれてチームで協力して考えていきます。自分が知らなかったことがたくさん書いてあって学ぶことができるし、平和について知ることができる本です。

倉敷市立庄中学校 2年

## ～知ろう、記憶に残そう、あの日の出来事を～



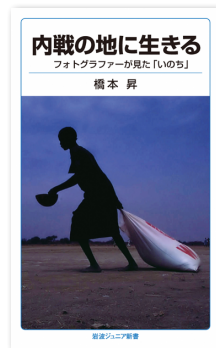
奇跡のプレイボール  
元兵士たちの日米野球

著 大社充  
金の星社



歩いて見た太平洋戦争の島々

著 安島太佳由  
岩波書店



内戦の地に生きる  
フォトグラファーが見た「いのち」

著 橋本昇  
岩波書店

『奇跡のプレイボール』は戦後65年たって、元兵士たちの日米交流野球を企画、開催するお話です。日米の元兵士たちの戦争体験や戦後の生活なども丁寧に描かれ、「奇跡」という言葉の意味を実感できます。『歩いて見た太平洋戦争の島々』は激戦地となった島々に、今も残る戦車・戦闘機・遺品を多くの写真で紹介しています。それらを忘れてしまわないように1つずつ記録していきます。『内戦の地に生きる』は世界各地で起きている内戦地をフォトグラファーの橋本さんが駆け回り、今この瞬間を写真に収めた本です。危険を承知で現状を知らせるために必死で撮った写真からは、生きる意味について考えてほしいという強いメッセージが伝わってきます。



## 明日のランチはきみと

F

作 サラ・ウィークス,  
ギーター・ヴァラダラージャン  
訳 久保陽子  
フレーベル館

正反対だからできたこと

倉敷市立東陽中学校2年

### 紹介文

インドから転校してきた自信家のラビと、自分に自信がなく消極的なジョー。ちがう国で育った性格も正反対なふたりの少年による最低で最高な一週間の本です。

倉敷市立東陽中学校2年

私はこの本を読んで、人の違いの良さに気づかされた。この本に出てくる2人の男子は対照的だが、それぞれに個性があって面白い。対照的な人同士は合わないと思っていたが、お互いの良さに気づいて高めあえるという利点もあると知った。出身の国でさえ違う2人が仲良くなって、大切なのは周りと同じであるということばかりではないと気づいた。違いがあるからこそ、お互いの良さが理解できるのだとこの本に気づかされた。

倉敷市立南中学校2年

## ～全ての人に正しい権利を～



82年生まれ、キム・ジョン F

著 チョ・ナムジュ  
訳 斎藤真理子  
筑摩書房



この世界を知るための  
大事な質問

著 野澤巨伸  
宝島社



弟の戦争 F

作 ロバート・ウェストール  
訳 原田勝  
徳間書店

『82年生まれ、キム・ジョン』の主人公は、韓国で女性だからと言って不平等なあつかいをされてきました。男女平等についてあらためて考えさせられる本です。『この世界を知るための大事な質問』は世界各地で子供たちの姿を撮り続けているカメラマン野澤さんが、データや事実を紹介しながら、様々な問題点についてQ&A方式で分かりやすく解説した本です。『弟の戦争』では主人公の弟を不思議な事件が襲います。人の気持ちを読みとる不思議な力を持っている弟が、ある日「自分はイラク軍の少年兵だ」と言い始めたのです。遠くにあるはずの戦争が現代の家族に迫ってくる物語です。世界各地で今まさに起こっている問題に目を向けるきっかけになる本です。